
アイシテル？

雪音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アイシテル？

【コード】

N5481M

【作者名】

雪音

【あらすじ】

ねえ、私を愛してる？一番に愛してくれる？

『愛してる？』

『愛してるよ』

二人きりの室内で

静かに問いかけた私に

貴方も静かに返事を返す。

ああ、なんて幸せなのかしら？

愛してる人に愛されているのだから。

これ以上の幸せはきつと無いわ。

『ねえ、今日貴方の隣にいた女性はだあれ？』

『ただの仕事仲間だよ』

疑惑いっぱい室内で

疑わしげに問いかけた私に

貴方は諭すようにして返事を返す。

ああ、貴方はなんて人なのかしら？

ただの仕事仲間だというその女性とも

私と同じような関係を持つなんて。

遊び相手はどっちなの？

私？彼女？それとも・・・？

『私を一番に愛してくれる？』

『もちろん。一番に愛してるよ』

少し湿っぽいような室内で

涙を流しながら問いかけた私に

貴方はじつとりと汗を流しながら返事を返す。

ああ、何で貴方は嘘をつくのかしら？

貴方の一番が私じゃないことくらい気づいてるのよ。

辛い・・・本当に辛いわ。

最初は愛されているだけでも幸せだったのに。
・・・どうすればいいのかしら？

『ねえ、私を愛してる？』

『

悲鳴がこだまする室内で

狂ったように問いかけた私に

貴方は返事の変わりに悲鳴を上げる。

ああ、本当に我侘でごめんなさい。

愛してるって分かってる。

愛してくれてるって分かってるわ。

でもね、それは全て

私が貴方の一番じゃないと意味無いことなのよ。

だからね、私は貴方の一番になりたいの。

『ねえ、愛してる？私を一番愛してる？』

静まり返った室内で

笑って問いかけた私に

返事を返してくれる人は誰もいない。

ああ、私は本当に幸せなのかもしれない。

これで貴方は私だけのものになったんだもの。

永遠に私だけのものに。

そして私は貴方の一番になれたんだもの。

永遠に貴方の一番に。

でも・・・。

貴方はもう私に語りかけてくれることは無い。

もう二度と愛してると言ってくれなくとも無いの。

貴方の一番になるために
失ってしまったものは大きかったみたい。
幸せなのに。

幸せなはずなのに。

どうしてかな。どこか虚しいの。

『愛してる？』

音の消えた室内で

静かに問いかけたけれど

赤く黒く染まった貴方は

何も答えてはくれないの。

私、やってはいけないことをやってしまったのかしら？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5481m/>

アイシテル？

2010年10月11日08時11分発行